

広域観光推進方策研究結果報告書

平成19年3月

広域観光推進方策研究会

1 概要

広域観光推進方策研究会では、平成18年7月から広域的に連携できる方策について、委員、アドバイザーによる意見交換を実施して研究をしてきました。

意見内容では、観光での連携は非常に難しい面があり、連携による地域格差が出る弊害があることや、連携のメリットが見えないという意見もありました。

また、各地域の状況により委員の間でも認識の相違が見られ、今後も慎重な議論の必要があります。

しかしながら、連携の意義については、アドバイザーや委員の意見の中にもあるように、管理（一元化）された情報を共有し、地域固有の魅力に則った特徴のある多様な広域周遊観光ルートの設定をすることで、単独市町村ではできない多種多様な観光客ニーズに対応できるといったことがあげられました。

それぞれの観光資源情報を個々で把握するよりも、管理（一元化）された情報を共有することで、地域の持つ資源の有効活用と、多様な情報提供ができるということが意見の中でのメリットと考えました。

そのためには、情報を一元化できる組織の検討も必要と思われます。

そこで、それぞれの持つ観光資源情報の共有化をすることが連携方策の柱と考えます。

2 具体的な連携の方策の項目

(1) 地域情報の共有化

各地域（市町村）での情報をそれぞれの媒体で表示するのみならず、旬の情報を一元化し、随時観光関係者にも共通した情報を提供できることにより、どこでも同じ情報・タイムリーな情報を提供できる環境整備を行う。

そのために、次に掲げる項目を連携の方策とします。

ア 地域情報発信（収集）システムの整備

地域の総合情報共有体制組織のあり方について検討を行い、将来的には、新幹線駅での情報発信とあわせ地域商品の企画及び販売機能を持つことも視野に入れ検討を行います。（→ 発展型：地域観光マネジメント機能を有した組織）

イ 地域内情報提供事業及び広域観光情報発信事業

- ① 促進地域固有の魅力に則った特徴のある多様な広域周遊観光ルートの設定
- ② ホームページによる最新の情報提供及び情報誌の制作
- ③ 情報を活用したPR活動(メディア・旅行会社等)
- ④ おもてなし醸成に関する事業及び人材育成事業
- ⑤ 北陸新幹線対応事業として、着型旅行商品の検討及び2次交通整備対策の検討

3 事業展開について

連携方策の具体的な事業展開については、来年度組織化・事業化に向けた検討委員会等を組織し事業実施へ向けて検討していきます。

検討委員会組織については、観光関連団体、商工会議所、交通関連団体、旅行関連団体、県・市町村等を構成として、それぞれについて検討及び事業展開を図ります。

- (1) 地域情報発信(収集)システムの整備
組織のあり方について検討を行います。
- (2) 地域内情報提供事業及び広域観光情報発信事業
組織発足までの間は、地域情報発信体制の検討と並行して促進地域固有の魅力に則った特徴のある多様な広域観光周遊ルートの設定のための、資源の洗い出しによる情報整理とルート設定作業を行います。
また、広域周遊ルート情報提供のためのホームページの検討と情報誌の発行に向けた作業など、情報発信に関する事業を行います。

4 おわりに

北信広域連合を含む市町村を取り巻く環境や、観光に関する状況は常に変化しており、今後は、さらに北陸新幹線飯山駅の開業により、地域の様相も大きく変わろうとしています。高速交通網及び高速情報網がますます整備されることによって、より多種多様なニーズが求められてきます。そのためにも、強い連携を図ることを要望します。

なお、この研究結果はあくまでも基本的な方向性を示したものであり、今後については、北信広域連合において速やかに具体的に検討され、内容を計画的かつ効率的に実施し、より連携を深め、より良い観光地となることを要望します。